



菊池 充 議員  
(無会派)

## タフ・ビジョンの 中間目標年の達成状況は

一問一答  
方式

**問** タフ・ビジョンの中間目標年の達成状況と、目標年への取り組み方針について伺う。

**答** 中間目標年の検証では、農業振興・畜産振興・林業振興において目標を達成したのもあれば、未達成のものもあつた。指導体制についても、個々の農家のニーズに対応したきめ細やかな支援、隙間を埋めるといふ点では、一定の成果は出ているものの、農家に対する

巡回指導や系統出荷拡大の取り組みなどについては、アスト発足当時と比べて活動が弱かつたなどの反省点もある。愚直に基本に立ち返り、目標達成に向けてきめ細やかな情報の提供に努めていく。

**問** 建設がスタートしたキャトルセンターの利用計画について伺う。

**答** 現在整備が進められている大野平キャトルセンターに、今後整備を予定している石羽根キャトルセンターと併せた事業計画となっており、二つのキャトルセンターを併せた規模は、成牛四百頭、子牛三百頭、分娩等の集中管理部門に50頭の併せて七五〇頭の規模で、

平成26年度に施設全体が完成予定である。指摘された畜産農家への説明会については、年度内に実施を計画しており、情報の共有と課題を共有しながら、総合力をもつて遠野の畜産を活性化していく。

**問** 汚染牧草地等の除染及び支援対策について伺う。

**答** 24年度施工は初めてのことであり、様々な要因が重なって目標560haの75%、422haにとどまった。25年度の1,300ha

については、除染作業の実行体制を着実に構築し、目標達成に向けて十分な体制を整える。基準値以下についても、自力で取り組む農家に対し、前倒しで経費の助成を行っていく。

**問** しいたけ生産に対する除染及び支援について伺う。

**答** 今年度出荷が規制された乾燥しいたけの集中管理や、50ベクレル/kgを超えたホダ木の処分を行うと共に、ホダ場の除染状況を調査し、実施について検討するなど、生産物が基準値以下となり、平成25年産から出荷規制が解除され、生産出荷が再開できるよう対策を講じていく。

## 汚染牧草地等の 除染及び支援対策は



自力施工による除染作業の風景